

第5回瀬戸市基本構想審議会 議事録（確定稿）

- 1 日 時：令和8年7月23日（木）午前10時から11時45分まで
- 2 場 所：瀬戸市役所 北庁舎4階庁議室
- 3 出席者：瀬戸市基本構想審議会委員11名（うちオンライン参加4名）
 【会長】 石川 良文（南山大学総合政策学部 教授）
 鷲見 英利（株式会社官民連携事業研究所）
 林 ともみ（ラジオサンキュー／瀬戸市障害者地域自立支援委員会）
 梅村 佳範（朝日インテック株式会社）
 浦田 真由（名古屋大学情報学部 教授）
 伊藤 和真（株式会社PoliPoli）
 吉澤 克哉（東海旅客鉄道株式会社）
 野々垣 賢人（瀬戸くらし研究所／株式会社きんつぎ）
 石川 圭一（土街人プロジェクト／株式会社双寿園）
 堀部 篤樹（愛知産業大学通信教育部造形学部 准教授）
 水谷 香織（名古屋学院大学現代社会学部 准教授）
 瀬戸市長 川本 雅之
 事務局（瀬戸市企画部政策推進課、健康福祉部社会福祉課）6名
- 4 欠席者：委員 橋本 美香（大橋運輸株式会社）
 神田 すみれ（多文化ソーシャルワーカー）
- 5 傍聴者：2名
- 6 議題及び議事内容：以下のとおり

発言者	内 容
1 開会（市長あいさつ）	
市 長	これまで委員の皆様には、2040年の瀬戸市の未来について、多くのご意見をいただき、感謝申し上げます。本日は、それらの議論を踏まえて整理した将来像案と基本構想の構成イメージについて、ご審議いただきたい。 人口減少など社会が大きく変化する時代だからこそ、瀬戸が1000年以上にわたり培ってきた挑戦する気質や、新たな価値を生み出してきた歴史を未来へつないでいくことが重要である。多様な人や価値観が自然に交わり、「化学変化」が当たり前になり、起き続けるまちを目指し、多くの市民に共感いただける計画となるよう、本日も忌憚のないご意見をお願いしたい。
2 協議事項	
(1) 基本構想 将来像・キャッチコピーについて	
事務局	(資料1)及び(資料2)の要点を説明)
石川会長	前回の審議会及び庁内検討会議での意見を踏まえ、将来像について再整理した案を提示いただいた。今回は、資料1を中心に、提案された将来像について率直なご意見をいただきたい。

発言者	内 容
梅村委員	「混ざって生まれる。」という考え方は今回の将来像の核となる部分であり、その後続く表現については、「輝く」よりも「めぐる」又は「息づく」の方が、化学変化が様々な場面で起こり続けるという考え方が伝わりやすいと感じた。 「輝く」は明るい未来を想起させる良い表現である一方、今回最も伝えたいメッセージは、化学変化が継続的に生まれる状態であると考ええる。
林委員	「混ざって」の「混ざる」を漢字で表現すると、人が混在するような印象を受けるため、ひらがな表記の方が柔らかく伝わるのではないかと感じた。 また、「めぐる」「息づく」「輝く」は説明を聞くと理解できるものの、やや硬い印象がある。「混ざって生まれる。化学変化が起こるまち」のように、よりシンプルで分かりやすい表現も考えられるのではないかと感じた。 さらに、「混ざる」ではなく「交わる」といった表現も選択肢として考えられる。
野々垣委員	3案はいずれも魅力的であるが、「輝く」は明るい未来をイメージしやすい一方で、少し表面的な印象も受ける。その点、「息づく」や「めぐる」は、化学変化が当たり前に起こり続ける状態を表現しているように感じる。 「息づく」は、化学変化が日々の暮らしの中で当たり前に起きている状態を表現できる点が良いと思う。一方で、新しい価値が生まれ続けることや、化学変化が循環し続けるイメージを重視するのであれば、「めぐる」の方が将来像の考え方とより一致しているように感じた。 また、「混ざって」という表現については、漢字表記はやや硬い印象もあるが、瀬戸は土や釉薬を混ぜるなど、「混ぜる」という行為が身近な地域であることを考えると、「混ざる」という言葉自体は瀬戸らしさを表す表現として非常に良いと感じた。
吉澤委員	前回と比較すると、瀬戸らしさである「融合」と「挑戦」を積み重ねていくという考え方がより明確に表現されており、とても良くなったと感じた。 将来像については、「めぐる」が最もふさわしいと思う。ビジョンは静的な表現になりがちだが、「混ざって生まれる」ことで新しい価値が生まれ、それが循環し続けるという動きが感じられ、将来像の考え方が伝わりやすいのではないかと感じた。 一方で、「化学変化」という言葉にはやや無機質で冷たい印象もあるため、説明文の中で、人の営みや手触り感が伝わるような温かみのある表現が加わると良いと思う。 また、「混ざる」ことは良いことだけではなく、異なる人や価値観が交わることで摩擦も生まれる。そのような摩擦も受け入れ、新たな価値を生み出すためのきっかけとして前向きに捉えていくという考え方が伝わると、より共感される将来像になるのではないかと感じた。
堀部委員	前回の審議会や庁内検討会議で多くの意見を踏まえ、ここまで整理されたことは大変だったと思う。 当初は「輝く」が明るい印象で良いと感じていたが、他の委員の意見も踏まえると、「めぐる」又は「息づく」の方が今回の将来像には合っているように思う。その中でも、「息づく」は市民にとって少し分かりにくい可能性があるため、「化学変化」が一度ではなく継続的に起こり続けることを表現できる「めぐる」が最も分かりやすいのではないかと感じた。

発言者	内 容
堀部委員	また、「混ざる」ということについても、良いことだけではなく摩擦や対立が生じることもあるが、それらも前向きな変化につなげていくという視点は重要であると感じた。
石川委員	どの表現もそれぞれ良さがあるが、将来像に込めた考え方が市民に分かりやすく伝わるのが最も重要であると思う。 また、「混ざる」ことで摩擦や様々な課題が生じることは避けられないが、大切なのは、その課題をどのように乗り越え、新たな価値につなげていくかである。その考え方を大切にしていきたい。
野々垣委員	検討会議の意見として、「将来像に直接『化学変化』を入れることに抵抗がある」という記載があったが、どのような意見があったのか伺いたい。
事務局	検討会議では、「化学変化」という表現がやや強い印象を与えるのではないかという意見があった。一方で、「化学変化」という考え方そのものに否定的な意見ではなく、表現としてももう少し柔らかく伝えられないかという趣旨の意見であった。
野々垣委員	審議会資料はホームページでも公開されているため、「化学変化」という言葉について質問を受けることがある。私はこの表現は良いと思っており、逆に「化学変化とは何だろう」と興味を持ち、考えるきっかけになることにも価値があると感じている。 そのため、「化学変化」という言葉を用いるのであれば、その意味や考え方を継続的に発信し、市民に丁寧に伝えていくことが重要なのではないか。
水谷委員	将来像について、大変分かりやすく整理されており、瀬戸市民が親しみをもち、「こういう未来なら良い」と前向きな気持ちになれることが大切であると感じた。そのため、市民の思いや受け止め方を大切にしながら表現を検討していただきたい。 また、将来像を描く目的についても、改めて整理すると良いのではないかと思う。将来像は未来を実現するために描くものであり、その姿を具体的にイメージし、共感できることが実現への原動力になると考える。 そのため、将来像には、嬉しい、楽しいといった前向きな感情が湧くような表現や、化学変化が起きた結果、人々がどのような暮らしを送り、どのような状態になっているのかがイメージできる表現を盛り込むことで、より共感を得られるのではないか。
伊藤委員	将来像の説明文は大変分かりやすく、瀬戸の歴史やアイデンティティがうまく言語化されていると感じた。千年以上にわたり、新しい価値を生み出し続けてきた瀬戸の歩みや、変化を受け入れながら発展してきた地域性がよく表現されていると思う。 また、「混ざって生まれる」という考え方には大変共感している。そのためには、人や活動が自然に出会い、新しい価値が生まれる場づくりが重要であり、まちの空間や拠点のあり方も将来像の実現に向けた重要な視点であると考えます。 例えば、尾張瀬戸駅周辺や商店街など、人が集まり交流する拠点をさらに充実させることで、市内外の人が気軽に訪れ、多様な人や活動が混ざり合う環境を生み出すことができるのではないか。若い世代が瀬戸で過ごしたくなるような魅力ある空間づくりを進めることが、「混ざって生まれる」を具体的に体現することにつながると感じた。
鷲見委員	私も「めぐる」が最も良いと感じている。「めぐる」は前向きでポジティブな印象があり、将来に向かって新しい価値が生まれ続ける動きも表現できていると思う。

発言者	内 容
鷺見委員	一方、「息づく」は様々な計画でもよく使われる表現であり、独自性という点では「めぐる」の方が瀬戸らしさを表現できるのではないかと感じる。 また、「人×コト×せと」という考え方とも親和性が高く、人や活動が様々な形でつながり、新たなアイデアや価値が生まれていくイメージが伝わりやすい。「めぐる」は未来へ向かって変化し続ける世界観が感じられ、前向きで個性のある表現になっていると思う。
浦田委員	3案はいずれも良い表現であり、「輝く」も将来像として分かりやすい印象を受けたが、内容を踏まえると「めぐる」が瀬戸市の将来像として最もふさわしいと感じた。 一方で、「めぐる」ことによって、その先にどのような未来を目指すのかという点も表現できると、より将来像として伝わりやすくなるのではないと思う。説明文には前向きな表現が盛り込まれているため、「化学変化がめぐる」ことでどのような状態を目指すのかについても、うまく伝えられると良い。
石川会長	当初、「輝く」が最も分かりやすい表現ではないかと感じていたが、本日の議論を聞き、「めぐる」が今回の将来像の考え方に最も合っているという印象を持った。 また、読み手に将来像を理解していただくためには、文章だけでなく、動画など様々な媒体を活用しながら、将来像のイメージを分かりやすく伝えていく工夫も必要ではないかと感じた。 本件については、多くの委員から「めぐる」を支持する意見があり、方向性について一定の共有が図られた。また、「混ざる」の表現や説明の工夫などについてもご意見をいただいた。あわせて、新たな表現案についてご提案をいただいたため、事務局においては本日の意見を踏まえて改めて整理し、最終的な決定を一任することとする。
(2) 基本構想 構成イメージについて	
石川会長	<u>資料2</u>については、前回から構成が変更されている。構成全体の流れが分かりやすいか、「なぜ化学変化なのか」という考え方が伝わる内容となっているか、また、読み手が2040年の瀬戸を考えられる構成となっているかという視点から、ご意見をいただきたい。
事務局	協議事項(1)でも、市民と将来像をどのように共有していくか、イメージ画像などについてご意見をいただいた。将来像だけでは表現しきれない部分もあるため、基本構想全体の中で補完していきたいと考えている。 なお、今回お示した構成イメージは完成版ではなく、今後さらにブラッシュアップしていくことを前提にご議論いただきたい。
堀部委員	基本構想の策定スケジュールを確認したい。
事務局	基本構想は来年3月の策定を予定しているが、10月からパブリックコメントを実施するため、内容については8月から9月頃までに概ね固め、パブリックコメントの結果を踏まえて最終的な調整を行う予定である。
堀部委員	これまでの審議や庁内での検討を経て、基本構想全体として非常によく整理されており、「尖った」内容になっていると感じている。一方で、特に表紙については、現時点ではやや無難な印象を受けるため、より印象に残るデザインを期待したい。

発言者	内 容
堀部委員	また、２０４０年の社会を表現するイラストについては、未来の姿をどのように描くのか難しい部分もあるが、市民が将来の瀬戸をイメージしやすい内容になることを期待している。 さらに、基本構想の冊子だけで全てを伝えることには限界があるため、説明会や様々な媒体を通じて内容を発信し、市民との対話を重ねながら理解を深めていくことも重要なのではないかな。
事務局	２０４０年の世界をイラストで表現することは難しいと考えているが、ＡＩなども活用しながら、子どもを含め多くの市民が未来の瀬戸をイメージできるようなビジュアルの作成を進めている。 スケジュールとの兼ね合いもあり難しいかもしれないが、次回の審議会でお示しできればと考えている。
林委員	まちづくりで大切にしたい４つの要素について、やきものづくりの流れと異なり、あえて【釉薬】「瀬戸らしいダイバーシティを実現する」を最初に配置した理由を伺いたい。個人的には、ダイバーシティの実現はとても重要であると考えているが、この順番にどのような意図があるのか。
事務局	４つの要素に優先順位を設けているものではないが、多様な人や価値観が混ざり合うことが化学変化の出発点であるという考えから、「瀬戸らしいダイバーシティを実現する」を最初に配置している。
林委員	優先順位を示しているものではなく、考え方として最初に位置付けているということに理解した。一方で、やきものづくりをモチーフとしていることから、工程の流れに合わせた構成も一つの考え方ではないかと思った。
野々垣委員	「２０４０年の社会と瀬戸市が目指す方向」は、社会課題と、それに対して瀬戸市が目指す方向性が対比されており、大変分かりやすい構成になっていると感じた。情報量を整理しながら、伝えたい内容がうまくまとめられていると思う。 一方で、導入部分の「私たち一人ひとりの変化が」という表現については、「変化」という言葉から、一人ひとりが変わらなければならないという印象を受ける可能性があるため、「行動」や「チャレンジ」など、より前向きな表現にすると、将来像に込めた思いが伝わりやすくなるのではないかと感じた。
石川会長	表現に関することも含め、気付いた点があればご意見をいただきたい。
石川委員	将来像を表現するイラストについては、ＡＩを活用するだけでなく、外国人や子ども、障害のある方など、多様な市民に絵を描いてもらい、それらを組み合わせるようなワークショップ形式で制作する方法も面白いのではないかなと思う。 そのような取組自体が、多様な人が関わる瀬戸らしい将来像づくりにつながると感じるため、ぜひ検討していただきたい。

発言者	内 容
水谷委員	資料2は、将来像を具体的な姿として表現した内容が分かりやすく整理されており、大変良いと感じた。 一方で、「瀬戸らしいダイバーシティを実現する」の中の、「年齢や国籍、働き方や暮らし方、住む場所などを超えて互いに認め合いながら活躍できる」という表現は、目指すまちの姿が具体的に伝わる内容となっており、このような要素が将来像にも少し反映されると、より分かりやすくなるのではないかな。 また、「化学変化をともに起こす仲間を増やしていく」という表現も印象的であり、そのような人々の姿がイラストなどで表現されると、目指す姿がより伝わりやすくなると感じた。 人口推計については、大変分かりやすい資料となっているが、「変化を力にしてきた1000年」というページにつながることを考えると、人口の推移についても30年程度ではなく、100年から150年程度の長い時間軸で示すことで、現在が大きな転換点にあることや、今取り組むべきことがより伝わりやすくなるのではないかなと思う。
石川会長	人口推計について、より長期的なデータを示すことは可能か。
事務局	現在使用している人口推計は、国立社会保障・人口問題研究所（社人研）の市町村別推計や国勢調査の実績を基に作成している。より長期のデータについては、他の資料も含めて活用できるものがないか確認したい。 長い時間軸でまちの変化を捉える視点は重要であり、資料の見せ方についても改めて検討したい。
浦田委員	「2040年の社会と瀬戸市が目指す方向」について、社会の変化と瀬戸市が目指す方向性が対比されており、大変分かりやすいと感じた。 一方で、その内容と、まちづくりで大切にしたい4つの要素との関係が、より分かりやすく伝わるよう工夫できると良いと思う。両者のつながりが見える構成になることで、基本構想全体の理解がさらに深まるのではないかな。
伊藤委員	これまでの議論でも申し上げてきたが、基本構想は瀬戸らしさが伝わる「尖った」内容にしてほしいと思う。瀬戸市は豊田市のような産業都市とは異なり、千年を超えるやきものの歴史や文化など、他にはない文化資本が大きな強みであるため、その強みを前面に打ち出した計画にすることが重要である。 基本構想全体の構成は分かりやすく整理されており、イラストなども活用しながら、若い世代から高齢者まで幅広い世代に伝わるものになることを期待している。 一方で、計画は作るだけでは十分ではなく、市民や市外の方へどのように伝え、巻き込んでいくかが重要である。 そのためには、ホームページだけでなく、SNSをはじめ様々な媒体を活用したマルチチャネルでの情報発信が必要である。また、LINEなどを活用したプッシュ型の情報発信を取り入れ、市民が自然と計画に触れられる工夫も重要なのではないかな。 さらに、子育て世代を重点的なターゲットとして、瀬戸の魅力を積極的に発信していくことも必要である。瀬戸ゆかりの人材など、そのような方々にも協力いただきながら、「瀬戸は面白いまち」というイメージを発信し、多くの人を巻き込んでいける広報につなげてほしい。

発言者	内 容
鷺見委員	「２０４０年の社会と瀬戸市が目指す方向」は分かりやすく整理されているが、一般の市民が読んだときには、２０４０年に向けて社会がどのように変化していくのか、その背景が十分に伝わらないのではと感じた。 人口推計は示されているものの、それ以外の社会変化については簡潔な記載にとどまっているため、なぜそのような施策や方向性が必要なのかを理解するには、もう少し説明があっても良いのではないかと感じた。 有識者であれば理解できる内容であっても、一般の市民は２０４０年の社会変化を十分に認識していない場合も多い。そのため、将来の社会がどのように変化し、その中で瀬戸市がどのようなまちを目指すのかを、もう少し丁寧に伝えることが、総合計画の役割の一つであり、策定する意義につながっていくと考える。
梅村委員	基本構想は、新たな方向性を示し、多くの人の行動につなげていくための計画であると考えている。 そのため、瀬戸市が１０００年以上にわたり、ものづくりを通じて発展してきた歴史を紹介する部分については、これまで瀬戸を築いてきた先人や地域への敬意が、もう少し伝わる内容になっても良いのではないかと感じた。 新しい取組を進める際には様々な意見があると思うが、まずは瀬戸の歩みや強みを市民全体で共有し、その上で未来に向かって進んでいくという流れを示すことで、多くの人が共感しながら将来を考えられる基本構想になるのではないかと感じた。
野々垣委員	前回資料では、「直面する課題」「到来するチャンス」「瀬戸市の地域資源・ポテンシャル」を整理した図が示されていたが、今回のイラストも同様の考え方を表現するものなのか伺いたい。
事務局	前回のような三区分ではなく、「２０４０年の社会と瀬戸市が目指す方向」の内容を分かりやすく表現するイラストを想定している。
野々垣委員	前回の「直面する課題」「到来するチャンス」「瀬戸市の地域資源・ポテンシャル」を整理した図は大変分かりやすいと感じていた。 今回の資料では、「瀬戸らしさ」や「地域資源」という言葉が多く使われているが、瀬戸の地域資源とは何かを市民が十分に理解しているとは限らない。そのため、瀬戸の地域資源やポテンシャルがどのようなものかを示し、「これも瀬戸の地域資源なのだ」と気付けるような内容が盛り込まれると、より理解しやすくなるのではないかと感じた。
吉澤委員	意見が分かれるかもしれないが、２０４０年の姿をイラストで表現することについては、少し慎重に考えた方が良いのではないかと感じた。 将来像では、様々なものが混ざり合い、思いがけない化学変化が生まれることを目指しているため、一つのイラストで未来像を固定的に示してしまうと、かえって将来像の考え方を狭めてしまう可能性がある。 イラストを用いるのであれば、未来の姿を描くのではなく、やきものや瀬戸らしい風景などの写真を効果的に活用する方法も考えられるのではないかと感じた。 また、「２０４０年の社会と瀬戸市が目指す方向」に示されている内容についても、項目数を整理し、重要な点を絞ってより丁寧に説明する構成の方が、読み手に伝わりやすいのではないかと感じた。

発言者	内 容
伊藤委員	イラストそのものにこだわりがあるわけではないが、文字だけの構成では、多くの市民に読んでもらうことは難しいと感じる。 そのため、イラストに限らず、やきものの写真やデザインなども含め、視覚的に興味を持ってもらえる工夫が必要ではないかと感じる。A Iを活用したビジュアル制作なども一つの方法ではないか。
水谷委員	将来像を具体的な姿として描き、その実現を目指す考え方もあれば、「何が生まれるか分からない」というプロセスそのものを大切にする考え方もあり、どちらの方向性もあり得ると考える。 また、やきもののづくりにおける土や火、技術などは、長年の積み重ねや経験によって培われてきたものであり、決して偶然や思いつきで生まれるものではなく、そうした積み重ねの中から化学変化が生まれるという「瀬戸らしさ」が伝わる表現になると良い。
石川会長	2040年の瀬戸の姿は一つの完成形ではなく、多様な可能性があるという視点も踏まえながら、表現方法について引き続き検討いただきたい。
堀部委員	イラストについては難しいテーマだと思うが、何もないよりは、何らかのビジュアルがあった方が読み手に伝わりやすいと感じる。 A Iの活用も一つの方法だと思うが、「化学変化」を一つのイラストで表現することは難しく、人によって受け止め方も異なると思う。そのため、瀬戸の地域資源やポテンシャルが伝わる写真を活用することも含め、複数の案を比較しながら検討すると良いのではないか。
石川会長	イラストやビジュアル表現については、審議会でも内容を確認する機会はあるのか。また、基本構想のプロモーションについても、今後どのような進め方を考えているのか伺いたい。
事務局	ビジュアルイメージについては、制作スケジュールとの兼ね合いもあるが、可能であれば次回の審議会でお示しし、ご意見をいただきたいと考えている。 また、イラストや動画、SNSなど、様々な媒体で発信する際にも、基本構想で示すメッセージとの一貫性が重要であると考えている。プロモーションについても、今後の審議などで、ご意見をいただく機会を設けていきたい。
水谷委員	イラストや写真などのビジュアルがあることで、基本構想はより親しみやすくなると思う。 一方で、「あなたは2040年の瀬戸にどんな景色を思い描きますか」という問いかけがある以上、一つの未来像を示すよりも、見る人が自由に未来を想像できる余白を残す表現の方が、基本構想の考え方にも合っているのではないか。 2040年の未来そのものではなく、瀬戸らしい風景や、やきもののづくりの歴史を感じられる写真などを活用する方法もあるのではないか。
野々垣委員	前回の資料では、「2040年、あなたはどんな未来を想像しますか」といった問いかけや、書き込めるスペースがあり、そのような仕掛けは大変面白いと感じていた。 例えば、「2040年、あなたは何歳になっていますか」「どのような暮らしをしていますか」といった問いかけがあることで、自分自身の未来と瀬戸の将来を重ねて考えるきっかけとなり、総合計画をより自分事として捉えられるようになるのではないか。

発言者	内 容
石川会長	他にご意見がないようであれば、本件については以上とする。 本日は基本構想の構成や表現、見せ方、プロモーションなど幅広いご意見をいただいた。事務局においては、本日の審議内容を踏まえ、基本構想のさらなるブラッシュアップをお願いしたい。
事務局	現在の構成では人口推計のみを掲載しているが、最終的にはアンケート結果などを含めた各種データを資料編として整理し、必要な情報を充実させる予定である。 一方で、基本構想本編では、まず市として伝えたいメッセージを示し、その後にデータを掲載する構成を考えている。社会課題や背景については、資料編や本文での記載方法も含め、いただいたご意見を踏まえて引き続き検討していきたい。
3 報告事項 (1) 基本計画 イメージについて	
事務局	(資料を用いて、以下の3点について報告) ①地域福祉計画との一体策定について ②地方版まち・ひと・しごと創生総合戦略との一体策定について ③分野別政策目標の現段階での検討状況について
林委員	現行の地域福祉計画では、重点施策や具体的な取組が詳細に定められているが、それらの達成状況について、今後公表される予定はあるのか伺いたい。
事務局 (地域福祉計画担当)	現行の地域福祉計画については、次期計画の策定と並行して評価作業を進めている。評価結果の公表方法については現時点では決まっていないが、お示しする方法についても今後検討していきたい。
事務局	補足すると、地域福祉計画を総合計画と一体化した後は、基本計画の健康福祉分野や関連する個別計画の目標について、総合計画の進捗管理とあわせて一体的に評価していくことを考えている。
浦田委員	国が公表した「地域未来戦略」との関係について、現時点での考え方を伺いたい。
事務局	地域未来戦略については、今後、愛知県を経て各自治体へ展開される予定と認識している。 一方で、今回検討している総合計画には、地域未来戦略で示されている考え方と重なる内容も多く含まれており、これまでの審議内容とも整合していると考えている。今後は国や県の動向も踏まえながら対応していきたい。
水谷委員	「まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、将来像や施策の大綱と重複する部分が多いため、総合計画と整合を図りながら整理すると良いと思う。 一方、地域福祉計画については、目指す姿をより具体的に示すことが重要であり、その内容を基本計画の中で示していくことが望ましいと考える。
石川会長	総合戦略を総合計画と一体化している自治体は多いが、地域福祉計画との一体化はあまり例がないと思う。その点について伺いたい。
事務局 (地域福祉計画担当)	地域福祉計画を総合計画と一体的に策定している自治体は多くはないが、東京都新宿区や江戸川区などの事例があるほか、小規模自治体でも策定事例がある。

発言者	内 容
石川会長	今後、一体化した計画がどのような構成となり、進捗管理をどのように行っていくのかがイメージできるように示していただけると分かりやすいと思う。 他にご意見がないようであれば、本件については以上とする。今後も適宜、審議会へ報告いただきたい。
4 その他	
事務局	(以下3点について報告) ①橋本委員の退任について ②令和7年4月～8年3月の瀬戸市の転入出者の推移について ③8月27日(木)関係人口創出イベントの開催について
石川会長	委員からの報告もないようであれば、本日の議事は以上とする。
事務局	石川会長をはじめ、委員の皆様には、長時間にわたり活発なご議論をいただき感謝申し上げます。 次回、第6回瀬戸市基本構想審議会は、9月8日(火)に開催を予定している。次回はパブリックコメント実施前の審議となるため、本日いただいたご意見を踏まえ、基本構想及び基本計画について、完成に近い案をお示しする予定である。 引き続き、計画策定へのお力添えをお願いする。
5 閉会	

以上